

ろうれん

なごらひ

第 8 号
2015年 1月
(平成27年)

榑葉町老人クラブ連合会

中央台
仮設校舎
にて

11/25(火)

南北小学校 低学年児童との交流

「生活科」のゲストティーチャーとして、榑葉町の様子や昔の生活についてお話したほか、昔あそびの実演と講習をしました。



いわき市に避難中の会員8名が「昔あそびの先生」になり、1年生15名、2年生13名の子どもたちからインタビューや質問を受けました。

また、一緒にけん玉やあやとり、お手玉、こま回しなどをして、楽しい交流の時間を過ごし、元気いっぱいの“孫たち”から、心に残るいろいろな“おみやげ”をもらいました。

また遊ぼうね！

年頭に

連合会長 新妻信一



避難生活4回目の新年を迎えましたが、健やかにお過ごしでしょうか。今年は町から帰町の時期が発表されるようですが、避難によって家族が離散状態になっているために待望の帰町宣言がなされてもすんなりと帰町できない高齢者が多いのではないかと予想されております。

檜葉町での医療体制や福祉サービス利用等への不安や各地区での生活は可能なのかなど行政の対応に望むことや、私達、老人クラブ会員が生きがいを持ち、健康づくりや友愛、奉仕活動ができるような体制づくりができるかなど解決しなくてはならない問題がたくさんあります。

今後に向け、町では「檜葉町高齢者生き生きライフ21策定委員会」を、檜葉町老人クラブ連合会では、「老人クラブ組織運営等検討委員会（仮称）」を立ち上げ、高齢者が健康で安心して生活するためにはどうしたらよいか検討して参ります。

老人クラブでは、若手会員の加入促進と新たな体制づくりが組織の維持運営のさしあたっての大きな課題となっています。

老人クラブ活動に対する町民の皆様の今後ますますのご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

空の家で

今年も「高齢者ミニ作品展」を開催します

とき

平成27年1月25日（日）
9：00～15：00

ところ

サポートセンター 空の家



今年は老人クラブ手芸教室の手づくり作品の販売をおこないます。

なお、出品にあたっては、申込書による事前申込みをしていただきます。

お問い合わせ・出品申込み受付
平成27年1月5日（月）～15日（木）
（土日・祝日をのぞく 8：30～17：15）
檜葉町社会福祉協議会 事務局
☎0246-38-8680

会員の皆さん、「頑張ろう!! はがき」は届きましたか?

檜葉町老人クラブでは震災時点に在籍していた会員を対象に“今年も元気に頑張ろう!!”の気持ちを込めて新年に激励はがきを送っています。

毎年、元旦に届くよう12月に各地区の役員等が宛名書きを行います。

今年もはがきが届いた多くの会員から近況を知らせる年賀はがきが届き、「仲間の絆」をつないでいます。



「檜葉町老人クラブ組織運営等検討委員会(仮称)」の委員が決定しました

避難生活やその他のさまざまな理由で老人クラブ組織の担い手が減少し、町連合会のみならず、地区の単位クラブの運営もままならない危機的状況からの脱出と組織の再生をめざす話し合い等を行います。

老人クラブに対するご意見やご要望などをどうぞお近くの委員にお伝え下さい。

委員 (敬称略・順不同)

新妻	信一	(連合会長)
松本	掌	(連合会副会長)
會澤	節夫	(連合会副会長)
永山	和平	(前 連合会長)
横田	芙美子	(女性部長)
関根	則子	(単位会長)
猪狩	洋子	(単位会長代行)

“語句楽” 熟語クイズ

【問題】中央の空いたマスに入る漢字を考えましょう。上下左右の漢字とは二字熟語になり、マスの漢字を続けると熟語になります。

【ヒント】会津味噌が香ばしく素朴な美味しさ。伝統芸能が由来。

【応募先と締め切り】はがきに①答え②住所③氏名を明記の上、〒970-0225 いわき市平上山口字小喜目作 34-1 檜葉老連事務局内「熟語クイズ係」まで。

1月20日(火)必着です。

正解者の中から
抽選で5名の方に
記念品を
さしあげます

	油		行	
稲	<input type="text"/>	舎	音	<input type="text"/>
	畑		屋	勝

(出題：元輝新報)

…………… よもやまばなし 「お正月のあれこれ」 ……………

かつて、「お正月」は各家にとって新しい年を迎える一大行事でした。

それだけに、漬物漬け・一家総出の餅つき・大掃除・おせち作り・正月飾り作りなどなどで年末は大忙しだったことを思い出します。

こうした中で、餅は「苦もち」になるから9のつく日はつかない。「お正月を迎えに行く」のは男衆の仕事。身を清めて山に入り、お神酒を捧げ、若松といわれる松の若木・サカキをいただいて来る。家内で作っていた正月飾りのしめ縄は左もじりに…。一夜飾りはしない…。飾る場所も、床の間・神棚・仏壇・玄関・台所・便所・井戸・氏神様（屋敷神）・そして門松。それぞれに餅を供えるという大変さです。

また喪中の家では正月行事をしない、その家には出入りしない、喪中の家人は他家を訪問しない…など、何とも厳しい約束ごともありました。

大晦日には、尾頭つきの赤い魚を神棚に供え、家族揃って一年の無事に感謝し、元日には新しい年の息災を祈りました。

今や、正月飾りも、お餅も、おせち料理も自分の手を煩わすことなく、買って揃うようになり、忙しさに目を回すこともなくなりましたが、「気分」だけは改まる気がします。

正月元日の元朝参り、2日の買い初め、7日の七草、正月送りのとり小屋（かつては15日）など残っている行事は、これからも引き継いでいきたいものですね。

今年も、7日には正月の餅やごちそう続きで少々疲れた胃を休める“七草粥”を楽しんではいかがでしょうか。

《毎日が正月》といわれる現代の暮らしの中で「お正月には餅食って～甘露甘露の酒飲んで～♪♪」と先人が歌ったこんな気分になってみることも必要なのではないのでしょうか。

わたしの近況

山田岡長生会
宇津 武生

震災当日、私達はいわき市内の弟宅に避難しました。現在は同市平吉野谷地区の借上アパートに妻、私、猫のナナ、ハルの2人と2匹の4人家族で暮らしています。ここは檜葉の田畑風景に似ており、違和感がありません。

妻は帰町をととても心待ちにしており、檜葉にはいつ帰れるのか、よく話題になります。その都度、「檜葉の家に戻ったら、花畑を作っているいろいろな花を咲かせよう」と話しています。

離れてみると、檜葉が恋しいですね。

皆さんどうぞ健康に気をつけてお過ごし下さい。



編集後記

新しい年が明けました。

会員みなさんの「かけ橋」になれば…とスタートした「ろうれんならは」も8号目になりました。

ひとつずつ年を重ねるたびに、あれこれ考えてはなんとなしに複雑な心境になるこのごろですが、「今日一日」を大切に、皆様が心穏やかに過ごせる一年でありますようお祈りしています。

(編集委員一同)